公益財団法人タカタ財団　２０２３年度事業報告書

（２０２３年6月１日～２０２４年5月３１日）

２０２３年４月８日の臨時評議員会において承認された２０２３年度事業計画に基づいて実行してきた事業活動について、以下報告する。

Ⅰ．役員に関する事項

１．評議員（２０２１年５月２０日以降現在）

役　職	氏　名	現　職
評議員長	近森　順	公益社団法人自動車技術会　名誉会員
評議員	石川　博敏	認定 NPO 法人救急ヘリ病院ネットワーク（HEM-Net） 理事
評議員	福田　守利	SJD 法学博士・国際経営カウンセラー・アメリカ法学者 神田外語大学　名誉教授 台湾天主教輔仁大学　特任教授
評議員	宮嵜　拓郎	公益財団法人国際交通安全学会　理事 一般社団法人ドライブレコーダ協議会　監事
評議員	村井　勝	慶應義塾大学　名誉教授

２．役員（理事）（２０２２年８月５日現在）

役　職	氏　名	現　職
代表理事	高田　暁子	財団統括
業務執行理事	薩摩　一彦	財団運営業務・広報事業・教育助成事業補佐
理事	西田　俊章	研究助成事業担当
理事	古谷　知之	慶應義塾大学総合政策学部　教授 教育助成事業担当

３．役員（監事）（２０２０年８月４日以降現在）

役　職	氏　名	現　職
監事	尾澤　輝行	税理士法人　尾澤会計事務所代表
監事	佐藤　正典	公認会計士

Ⅱ．理事会の開催

１．２０２３年７月６日（木）、理事４名及び監事１名で定足数を満たしたので、高田理事長は決算理事会の開催を宣言し、薩摩業務執行理事に議長を委任して会議を開始した。

【報告事項】

（１） 代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第９１条第２項並びに定款第２８条第４項の規程に基づき、代表理事（高田理事長）及び業務執行理事から職務について適切に執行している旨、報告があった。

（２） 第１１回助成研究報告会の結果報告

議長は２０２３年６月８日（木）に開催された第１１回助成研究報告会について、西田担当理事に説明を求めた。

西田理事は、２０２２年度研究助成を対象とした当該報告会をオンライン方式で開催し、盛況に終了した旨の報告を行った。

詳細は、７ページに記述の「２０２２年度助成研究報告会の開催」を参照のこと。

（３） 改正公益通報者保護法についての研修報告

議長は、２０２３年４月開催の理事会において制定された当財団の公益通報者保護規程の運用等について薩摩理事に説明を求めた。

薩摩理事は本規程について２０２３年６月１日施行の改正公益通報者保護法に基づいて制定したもので、役職員に対して規程の運用と法律の教育・周知を目的として研修を定期的に開催していく旨の報告を行った。

（４） ２０２３年８月の定時評議員会を書面決議にて行う旨の確認報告

議長は、未だ収まらない新型コロナ感染禍や近年の異常気象などを考慮して、２０２３年度の定時評議員会は、４月の理事会で提案した通りに８月４日（金）を決議日とする書面審議にて行うことについて、５月１８日（木）開催の臨時評議員会において承認を得た旨の報告を行った。

【決議事項】

第１号議案　２０２２年度事業報告書承認の件

議長は２０２２年度(2022/6/1-2023/5/31) 事業報告書 (案) の説明を各担当理事に求め、

・西田理事より研究助成事業の研究助成テーマ選考及び助成研究報告会の開催・運営について
・古谷理事より寄附講座助成事業について
・薩摩理事より事業全体の活動及び理事会、評議員会について、タカタライブラリー事業及び広報事業について

説明がなされた。

説明の後、その承認を議場に諮り、満場一致で決議した。

第２号議案　２０２２年度(2022/6/1-2023/5/31)決算計算書類等及び財産目録承認の件

議長は、２０２２年度決算計算書類の説明を担当者に求めた。

担当者は、貸借対照表から正味財産増減計算書、財務諸表の注記、附属明細書、財産目録について説明を行った。

当期は、前期予算で提案した基本財産（定期預金）の２００万円を普通預金に振替、受取寄付金８００万円と合わせた１０００万円を一般正味財産の収益として計上し、経常費用の事業費７６５万円と管理費 ２５３万円を併せた１０１８万円の費用支出を得て、計上増減は１８万円の支出増となった。

なお、当期においては期末日間際の５月２４日に高田暁子氏から次年度予算受取寄付金８００万円の預金入金があったため、次年度資金の預り金として貸借対照表では資産の預金勘定と負債の預り金勘定が増加している。

説明の後、その決議を議場に諮ったところ、満場一致で可決した。

以上をもって本理事会の議案のすべてを終了したので、議長は１７時３０分に閉会を宣言した。

２．２０２４年４月１９日（金)、理事３名、監事１名の出席により定足数を満たしたので、高田理事長は理事会の開催を宣言し、薩摩業務執行理事に議長を委任して議事を進行した。

【報告事項】

（１）代表理事、業務執行理事の職務執行状況の報告

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第９１条第２項並びに定款第２８条の規定に基づき、代表理事（高田理事長）及び業務執行理事（薩摩理事）から、期中の職務執行状況について、適切に遂行している旨の報告がされた。

（２）公益通報者保護制度のための教育についての報告

薩摩理事より、公益通報者保護規程だ１４条（公益通報者保護制度のための教育）に基づき、２０２３年１２月に当財団にとって最適な方法(規程の再読を促す等)により教育を実施したとの報告がなされた。

（３）タカタ財団の公益財団としての今後の事業活動について

２月１９日に高田理事長との打ち合わせを持ち、今理事会の第３号議案にて今後の業務展開を協議することとした。

【決議事項】

第１号議案　２０２４年度事業計画書（案）の件

議長は、２０２４年度(2024/06/01~2025/05/31)事業計画（案）について、「２０２４年度事業計画書（案)」に基づき、説明を行った。

計画の主な内容は、

・「２０２４年度研究助成事業」は諸事情を鑑み、休止を継続する。

・道路交通安全に関わる「寄附講座」は、慶應義塾大学への教育助成決定後の３年目となり、３５０万円の予算を計上した。

第２号議案　２０２４年度収支予算書（案）の件

議長は、２０２４年度（(2024/06/01~2025/05/31）収支予算（案）の説明を担当者に求め,担当者は２０２４年度収支予算書（案）に沿って説明を行った。

「研究助成費」は、事業計画書に示すとおり研究助成事業を休止継続とし予算計上はなく、道路交通安全に関わる教育事業「寄附講座」の３５０万円と「広報費」を改め「IT 関係費」としての４４万円＋１０万円を計上し、事業費の総額は７００万円、管理費総額は２５０万円で、予算総額は９５０万円の収支予算書（案）を作成した。

説明の後、その決議を議場に諮り、満場一致で可決した。

第３号議案　タカタ財団の今後の事業活動についての方針確認

議長は【報告事項】にて提示した今後の事業活動の在り方について協議をする旨の説明をしたが、理事長と尾澤監事が主体となって今後のスケジュールを進めてゆく旨の確認をした。

第４号議案　５月の臨時評議員会及び７月の決算理事会、８月定時評議員会の開催日について

議長は、各会議の開催日及び時間について以下の案を議場に諮り、満場一致で可決された。

・５月臨時評議員会は、評議員の都合を考慮して開催時間は別途決めることとして、５月１３日（月）の開催を理事会から提案する。

・７月決算理事会は、７月５日（金）の開催とする。

・８月定時評議員会は、８月５日（月）を理事会から提案する。

以上をもって、本理事会の議案の全てを終了したので、議長は１７時３０分に閉会を宣言した。

Ⅲ．評議員会の開催

１．２０２３年８月４日定時評議員会の開催（書面決議による。）

公益財団法人タカタ財団は、２０２３年８月に書面審議による定時評議員会を実施した。

◎ 報告事項

① 第１１回助成研究報告会の結果報告

7 ページに記述の「２０２２年度助成研究報告会の開催」を参照のこと

◎ 決議事項

１．評議員会の決議があったものとみなされた事項

第１議案　２０２２年度（2022/6/1~2023/5/31）事業報告書の件

評議員会資料「２０２２年度事業報告書」の通り

第２号議案　２０２２年度(2022/6/1-2023/5/31)決算計算書類等、財産目録及び監査結果報告の件

決算計算書類等

・貸借対照表

・正味財産増減計算書及び内訳表

・予算対比正味財産増減計算書

・財務諸表の注記

・附属明細書

・財産目録

監事の監査報告書

２．１の事項を提案した者の氏名

代表理事　高田　暁子

３．評議員会の決議があったものとみなされた日

令和５年８月４日

４．議事録の作成に関わる職務を行った者の氏名

代表理事　高田　暁子

５．評議員会の構成員（全５名）

評議員長　近森　順

評議員　石川　博敏、福田　守利、宮嵜　拓郎、村井　勝

２０２３年７月２１日、代表理事が評議員に対して評議員会の決議の目的である事項についての提案を行い、当該提案について、評議員全員から書面による同意の意思表示を得たので、一般社団法人に関する法律第１９４条の規定に基づき、決議事項を可決する旨の評議員会の決議があったものとみなされた。

上記の通り一般社団法人法に関する法律第１９４条第１項の規定に基づき、評議員会の決議があったものとみなされた事項を明確にするため、議事録を作成し、その作成に関わった者が記名押印した。

２．２０２４年５月臨時評議員会の開催

２０２４年５月１３日（金)、出席評議員が定足数を満たしたので、定款第２２条及び評議員会規程第８条に基づき、近森評議員長が臨時評議員会の開催を宣言した。

会議にあたり、薩摩執行理事から高田理事長が都合により欠席する旨報告があった。

【報告事項】

（１）２０２５年研究助成事業中止の報告

(2024/10-12 公募、2025/4 開始の研究)

議長は、２０２５年研究助成事業の休止についての説明を担当理事に求めた。

薩摩業務執行理事から、２０２３年度の研究助成休止に引き続き、２０２４年度も事業の休止を決定した旨の報告を得た。

（２）２０２５年度教育助成休止の報告

薩摩業務執行理事より、道路交通安全に関わる「寄附講座」は大学公募の結果として、慶應義塾大学への３年間の教育助成決定後の当年度（２０２４年度）が３年目となり助成が行われるが、２０２５年度（翌年度）は教育事業としての寄附講座の大学公募は行わず、休止とする旨の報告を得た。

【決議事項】

第１号議案　２０２４年度(2024/6/1-2025/5/31)事業計画書の件

代表理事より提出された２０２４年度事業計画書（案）について、薩摩業務執行理事から詳細な説明がなされた。

・公益目的事業として「研究助成事業」は、時下の諸事情を鑑みて休止とする。
・交通安全に関わる教育事業「寄附講座」は公募の結果、慶應義塾大学への 3 年間の教育助成決定後、今年度は３回目３年度の教育助成を行うが、翌年度（2025 年）の大学公募は行わず、休止とする。
・タカタラブライリーの公的文献の充実化及び関係諸機関とのリンクは継続するほか、財団の社会認知度向上を図る広報活動を行う。
・タカタライブラリーの文献充実化及び関係諸機関とのリンクを継続するほか、財団の社会認知度向上を図る広報活動を行う。

なお、前年の評議員会において評議員より指摘のあった IT 関連費用は、科目を設けて明確化を図った。

議長は、この事業計画書（案）を議場に諮り、出席評議員の挙手により決議を求めたところ、全員一致でこれを承認した。

第２号議案　２０２４年度収支予算書（案）の件

代表理事より提出された２０２４年度(2014/6/1-2025/05/319 収支予算書（案）について、担当者より、２０２４年度収支予算は、９００万円の「受取寄附金」をもって賄う。

予算総額は、事業費としての寄附講座助成費３５０万円を含む７００万円と管理費の２５０万円を合わせて９５０万円としたことの説明がなされた。

尚　IT 関連の費用を明確にするため、広報費を「IT 関連費」と改称した。

議長はこの収支予算書（案）を議場に諮り、出席評議員の挙手による決議を求めたところ、全員一致でこれを承認した。

第３号議案　８月定時評議員会開催日の提案

議長より、８月の定時評議員会の開催日を８月５日（月）として理事会より提案されている旨の説明がなされた。

この定時評議員会の終了の時をもって、評議員、理事、監事の任期が満了することとなり、この８月の定時評議員会において選任されることが必要である旨の説明がなされた。

議長はこの議案を議場に諮り、出席評議員全員一致で承認された。

Ⅳ.２０２３年度に実施した事業について

１.研究助成事業

（１）２０２３年度研究助成テーマの選定について

新型コロナ感染禍の中、研究助成事業は難しいと判断され、２０２３年度実施は見送られた。

（２）２０２２年度助成研究報告会の開催

２０２２年度研究助成事業で選定された５件の研究テーマについて、２０２３年６月８日（木）に今回で２回目となるオンライン方式による助成研究報告会を開催した。

報告テーマ；

	研究テーマ名	報告者
1	「無信号横断歩道手前に設置する法定外路面標示による速度抑制効果」	大阪大学大学院 工学研究科 准教授　飯田　克弘氏
2	「半側空間無視を呈した脳卒中麻痺者の自動車運転再開支援」	静岡リハビリテーション病院 理学療法士 田中　幸平氏
3	「長期観測運転データを用いた高齢運転者の加齢に伴う危険運転行動発生メカニズムの分析」	名古屋大学大学院 未来材料・システム研究所 教授　山本　俊行氏

4	「膝関節周辺外傷後の運転許可のために必要な関節可動域の研究」	かわしまクリニックリハビリテーション科　副主任 岸本　進太郎氏
5	「交通死亡事故における救護義務違反の発生要因の科学的解析による予防策の考察」	東京女子医科大学 医学部法医学講座 教授　木林　和彦氏

本助成研究報告会は、自動車製造関連、教育関連を主体に常時約５０名が聴講、聴講後のアンケートでも高い満足評価が得られた。

２．寄附講座助成事業

２０２３年１０月４日から２０２４年１月２３日まで秋学期に開講した慶應義塾大学総合政策学部・環境情報学部（湘南藤沢キャンパス）共通講座「交通安全文化論」に対して助成を行った。

今年度の講義は、コロナ禍が落ち着きつつある状況を踏まえて、教室での対面講義とオンライン方式の併用で行われた。

（１） 本年度の履修生数・内訳

	１年生	２年生	３年生	４年生	小計	合計
総合政策学部	９	２６	２６	１８	７９	１４２
環境情報学部	７	１８	２３	１５	６３	

（参考：開講以来の履修生総数：３，４９７名）

（２）全 14 回の講義内容

回	年月日	講義名	講師	所属・役職
第１回	2023 年 10 月 3 日	ガイダンス	古谷　知之氏	慶應義塾大学総合政策学部 教授
第２回	10 月 10 日	国土交通省における交通安全の取組み	猶野　喬氏	国土交通省物流・自動車局 車両基準・国際業務室長
第３回	10 月 17 日	交通事故死者削減のための課題と新技術	高橋　信彦氏	（一社）日本自動車工業会 安全技術・政策委員会 車両安全部会長 日産自動車株式会社 認証法規部　技監
第４回	10 月 24 日	自動車技術の国際基準調和活動	佐藤　健二氏	国土交通省物流・自動車局 車両基準・国際課企画室長

第 5 回	10 月 31 日	自動車事故を防ぐ、 自動車事故から守る、 被害者を支える	家邊　健吾氏	独立行政法人 自動車事故対策機構 審議役
第 6 回	11 月 7 日	交通事故死者ゼロに向けて ―自動車業界の安全への 　取組み―	葛巻　清吾氏	サムズオフィス代表取締役 （元トヨタ　先進技術開発 カンパニー　フェロー)
第 7 回	11 月 14 日	Mobility as a Service	水田　哲夫氏	国土交通省総合政策局 モビリティサービス推進課
―	11 月 21 日 ～28 日	三田祭		
第 8 回	12 月 5 日	超小型モビリティの世界	小畑　正好氏	（一社）日本自動車文化 振興会　理事長
第 9 回	12 月 12 日	安全な交通社会の実現に向けて	松井　靖浩氏	（独法）自動車技術総合機構　交通安全環境研究所 上席研究員
第 10 回	12 月 19 日	レースの世界からみた交通安全	佐藤　琢磨氏	レーシングドライバー
第 11 回	12 月 26 日	自動運転の実現に向けた警察庁の取組みについて	成富　則宏氏	警察庁交通局交通企画課 自動運転企画室長
第 12 回	2024 年 1 月 9 日	2 輪自動車の安全	黒木　一義氏	本田技研工業株式会社 経営企画統括部安全企画部 安全戦略推進課 チーフエンジニア
第 13 回	1 月 16 日	四肢の交通事故外傷に対する整形外科学的対応	佐藤　和毅氏	慶應義塾大学病院 スポーツ医学総合センター 教授
第 14 回	1 月 23 日	交通安全文化とはなにか	小管　英恵氏	公益財団法人 交通事故総合分析センター 研究部　主任研究員

各講師には大学側から講義内容に関わる課題を履修生に出すことが求められており、履修生のレポートは各講師にフィードバックされていることが報告された。
この履修生レポートは併せてタカタ財団事務局にも送付されている。

3．交通安全公的文献ライブラリー（タカタライブラリー）の構築継続

道路交通安全に関わる日本国内官公庁・委員会等の公的文献のデータベース事業として

「タカタライブラリー」の構築を継続し、新たに国内関係１４件を追加し総計４５０件となった。

２０２３年度公的文献ライブラリー掲載一覧

No.	主　管	会議開催日	会　議　名
1	国土交通省自動車局 技術・環境政策課	令和５年６月 29 日	令和５年度第１回車両安全対策検討会
2	国土交通省 物流・自動車局 技術・環境政策課	令和５年 11 月９日	令和５年度第２回車両安全対策検討会
3	国土交通省 物流・自動車局 技術・環境政策課	令和６年３月 18 日	令和５年度第３回車両安全対策検討会
4	国土交通省道路局/ 物流・自動車局	令和５年 11 月 17 日	令和５年度事業用自動車に係る総合的安全対策検討委員会
5	国土交通省都市局 街路交通施設課	令和５年３月 13 日	令和４年度第２回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
6	国土交通省都市局 街路交通施設課	令和５年 11 月１３日	令和５年度第１回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
7	国土交通省都市局 街路交通施設課	令和６年３月 13 日	令和５年度第２回都市交通における自動運転技術の活用方策に関する検討会
8	警察庁交通局 交通企画課	令和５年９月 14 日	令和５年度第１回自動運転の拡大に向けた調査検討委員会
9	警察庁交通局 交通企画課	令和５年 11 月 10 日	令和５年度第２回自動運転の拡大に向けた調査検討委員会
１０	警察庁交通局 交通企画課	令和５年 12 月 22 日	令和５年度第３回自動運転の拡大に向けた調査検討委員会
１１	警察庁交通局 交通企画課	令和６年３月	自動運転の拡大に向けた調査研究報告書
１２	自動車事故対策 機構	令和５年３月 23 日	令和４年度第３回自動車アセスメント評価検討会
１３	自動車事故対策 機構	令和５年７月 24 日	令和５年度第１回自動車アセスメント評価検討会
１４	自動車事故対策 機構	令和５年 12 月 20 日	令和５年度第２回自動車アセスメント評価検討会

国際連合世界保健機構(WHO)で発行しているに道路交通安全啓発資料について、資料最新版の掲載許諾申請の過程で WHO から常に最新情報の提供が可能になるリンク掲載許諾の提

案を受け、従前の掲載資料は削除して WHO のリンクを掲載した。
https://www.who.int/health-topics/road-safety#tab=tab_1

４．広報事業

ホームページのコンテンツの充実

（１）タカタ財団の情報公開

事業計画書、収支予算書、事業報告書、決算計算書の公開等随時更新

（２） ２０２４年度研究助成

９月２０日、ホームページに研究助成の公募休止を公開した。

（４） 国立国会図書館・科学技術振興機構への論文登録

２０２３年度助成研究論文の登録はなし。

補足：タカタ財団の助成研究論文は国立国会図書館に「International Standard Serial Number「(ISSN2185-8950）の番号で登録されているが、実態はタカタ財団の助成研究論文サイトにリンクが貼られているだけで、ＰＤＦ形式による論文の保存はない。
東京の図書館にＰＤＦによる保存の可能性について相談したところ、京都の国会図書館では行っているかもしれないとの情報をいただきコンタクトしたところ、収集に値する研究論文との評価をいただき、ＰＤＦによる論文保存作業を行ってもらえることとなった。
但し、沢山の収集リクエストをこなしている状況のため明確な収録日程は明示してもらえず、おそらくは来年１月くらいになりそうとの見通しである。

（５）大学病院情報ネットワーク(UMIN)への情報提供

UMIN センター情報公開サイトに助成研究報告会の開催の掲載を依頼し、助成研究報告会聴講者の増加を図った。

（６）リンク先の追加

２０２３年度に新たに追加したリンク先はない。

（７）佐野彰一氏（元東京電機大学教授）寄稿「交通安全コラム」の掲載継続

第２８２回(2023/6/1)～第３０６回(2024/5/15)まで計２４回の掲載を行った。

（８）リーフレットの随時改定

従前のリーフレット内容に変更はなし。

以上